

消化器外科専門医筆記試験問題 (第 15 回より抜粋)

- 1 正しい組合せはどれか。
- | | | | | |
|-----------------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|
| a IL-2 | ————— | B 細胞分化 | a (1), (2), (3) | b (1), (2), (5) |
| b IL-4 | ————— | T helper type 1 | c (1), (4), (5) | d (2), (3), (4) |
| c IL-12 | ————— | T helper type 2 | e (3), (4), (5) | |
| d IFN- γ | ————— | 抗体産生亢進 | | |
| e TNF | ————— | 悪液質 | | |
- 2 原因・誘因と病態のうち誤っている組合せはどれか。
- | | | | | |
|----------|-------|----------|--|--|
| a イレウス管 | ————— | 腸重積 | | |
| b 悪性リンパ腫 | ————— | 消化管穿孔 | | |
| c 胆石 | ————— | 急性膵炎 | | |
| d 肺気腫 | ————— | 消化管出血 | | |
| e 心房細動 | ————— | 腸間膜静脈血栓症 | | |
- 3 絞扼性イレウスについて正しいのはどれか
- (1) 初診時より腸雑音が亢進している。
 (2) 腹痛に対して鎮痛剤の効果が著明である。
 (3) 腹部単純写真で keyboard sign が認められる。
 (4) Wahl 徴候とは拡張腸管を腫瘍として触れることである。
 (5) 腹痛が著明であるにもかかわらず、筋性防御に乏しい。
- | | | |
|------------|------------|------------|
| a (1), (2) | b (1), (5) | c (2), (3) |
| d (3), (4) | e (4), (5) | |
- 4 重症感染症の栄養管理について誤っているのはどれか。
- (1) エネルギー代謝は 30~50% 増加する。
 (2) ブドウ糖の好氣的解糖亢進を生ずる。
 (3) 銅の肝内蓄積を生じやすい。
 (4) 末梢組織からアミノ酸の放出を生ずる。
 (5) 脂肪酸化の亢進を生ずる。
- | | | |
|------------|------------|------------|
| a (1), (2) | b (1), (5) | c (2), (3) |
| d (3), (4) | e (4), (5) | |
- 5 外科的侵襲により増加するのはどれか。
- (1) 尿中 Na 排泄
 (2) アルブミン合成
 (3) ノルアドレナリン分泌
 (4) 糖新生
 (5) 抗利尿ホルモン分泌
- 6 35 歳の男性。主訴：肛門周囲の腫張・疼痛、膿汁排出。現病歴：肛門周囲の腫張・疼痛を認め近医受診していたが症状の改善なく来院した。初診時、肛門周囲に腫張・疼痛あり。会陰部に自潰創と浸出液の流出を認めた。来院時検査所見と CT 像 (写真 1) を示す。壊疽性筋膜炎と診断され入院となった。
- 来院時血液検査所見：赤血球 481 万、Hb 8.8g/dl、Ht 29.6%、白血球 19,700、血小板 32.8 万、TP 6.1 g/dl、ALB 3.2g/dl、T-B 0.6mg/dl、AST 20 単位、ALT 19 単位、BUN 16mg/dl、Cr 0.6mg/dl、AMY 34 単位、GLU 130mg/dl、CRP 13.0mg/dl
- 正しいのはどれか。
- (1) 好気性菌感染である。
 (2) 脳血管障害患者に発症しやすい。
 (3) 皮膚自潰部に対し生理食塩水での洗浄は有効である。
 (4) 悪臭を伴った膿性滲出液が特徴である。
 (5) 会陰部に発症した場合は Fournier's gangrene と呼ばれる。
- | | | |
|------------|------------|------------|
| a (1), (2) | b (1), (5) | c (2), (3) |
| d (3), (4) | e (4), (5) | |
- 7 逆流性食道炎について正しいのはどれか。
- a むねやけ症状のある患者では全例に何らかの内視鏡所見がある。
 b 内視鏡所見として多いのはびらん・潰瘍型である。
 c ロザンゼルス分類は色調変化型食道炎の重症度分類である。
 d 狭窄を起こすことはない。
 e PPI 内服中の患者は 24 時間にわたり中性の胃内 pH を示す。
- 8 誤っている組合せはどれか。
- | | | |
|------------|-------|-------------------|
| a 食道裂孔ヘルニア | ————— | Belsey Mark IV 手術 |
| b アカラシア | ————— | Heller-Dor 手術 |
| c 胃静脈瘤 | ————— | Toupet 手術 |

- d 食道静脈瘤———Hassab 手術
- e 逆流性食道炎———Hill 手術

9 胸部下部食道癌の手術において郭清すべきリンパ節はどれか。

- (1) 左胃動脈幹リンパ節⑦
 - (2) 幽門下リンパ節⑥
 - (3) 気管前リンパ節⑩⑥-pre
 - (4) 前縦隔リンパ節⑪④
 - (5) 後縦隔リンパ節⑪②
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

10 食道の特殊円柱上皮について正しいのはどれか。

- (1) 頸部食道が好発部位である。
 - (2) 粘膜筋板の二重化を伴うことが多い。
 - (3) 癌の発生率が高い。
 - (4) Paneth 細胞がみられる。
 - (5) アカラシアに伴うことが多い。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

11 66歳の男性。胃癌にて胃全摘後7年経過。貧血精査で来院した。赤血球285万, Hb 7.8g/dl, MCV 73fl, Fe 38μg/dl, VB12 299pg/ml。正しいのはどれか。

- a 大球性貧血である。
- b 消化管精査が必要である。
- c 胃癌再発の可能性が高い。
- d 鉄剤投与は無効である。
- e Castle 内因子の欠落が原因である。

12 誤っている組合せはどれか。

- a ガストリン———胃酸分泌刺激
- b モチリン———胃運動抑制
- c セクレチン———膵液分泌刺激
- d ソマトスタチン———胃酸分泌抑制
- e コレシストキニン———膵酵素分泌刺激

13 誤っているのはどれか。

- (1) 胃原発 GIST ではリンパ節転移の頻度が高い。
- (2) 発症後 24 時間以内の十二指腸潰瘍穿孔性腹膜炎では保存的治療が可能な症例がある。

(3) 急性輸入脚閉塞症では無胆汁性嘔吐が特徴である。

- (4) 胃平滑筋腫は消化管内出血の原因となる。
 - (5) 胃癌根治手術後の再発形式で最も多いのはリンパ節再発である。
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

14 胃悪性リンパ腫について正しいのはどれか。

- (1) 病変が多発している。
 - (2) B 細胞由来が多い。
 - (3) 胃壁の壁伸展は不良である。
 - (4) MALT リンパ腫は手術が第一選択である。
 - (5) 表層型は MALT リンパ腫が多い。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

15 65歳の男性。胃体部後壁の Borrmann 3 型の胃癌に対して定型的な D2 のリンパ節郭清を行うために、総肝動脈が固有肝動脈と胃十二指腸動脈とに分岐する部位の前面を鋭的に剥離していたところ、動脈性の出血を認めた。出血源と思われるのはどれか。

- (1) 上十二指腸動脈
 - (2) 右胃動脈
 - (3) 前上臍十二指腸動脈
 - (4) 右胃大網動脈
 - (5) 後上臍十二指腸動脈
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

16 65歳の男性。数年前より、胸焼けがあり、朝起きたときに、口の中に苦い水があがることがあった。最近、胸焼けが増強するようになり、来院した。体重が3か月間に5kg減少した。上部消化管造影像(写真 2a)ならびに下部食道の内視鏡像(写真 2b)を示す。

既往歴：20年前に胃潰瘍にて手術を受けている。3年前に胆石症のため、胆嚢摘出術を受けている。正しいのはどれか。

- (1) メシル酸カモスタットの内服が有用である。
- (2) 発生に *Helicobacter pylori* が関与する。
- (3) ビルロート I 法への変換が有用である。

- (4) プロトンポンプ阻害薬で症状は消失する。
 (5) Roux-Y 法への変換が有用である。
 a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
 d (3), (4) e (4), (5)
- 17 直腸癌手術に必要な局所解剖について正しいのはどれか。
 a 陰部神経の損傷により逆行性射精が起こる。
 b 骨盤内自律神経系は直腸固有筋膜の内側を走行する。
 c 左右腰内臓神経が合流し上下腹神経叢を形成する。
 d 骨盤内臓神経は副交感神経である S1, S2 神経から構成される。
 e 下直腸動脈の分枝は 5 時と 7 時の位置に存在する。
- 18 早期大腸癌について誤っているのはどれか。
 a EMR の適応決定には生検による病理組織の確認が必要である。
 b pit pattern の V 型 N (non-structure) は sm 癌の診断指標として有用である。
 c sm 浸潤癌の約 10% にリンパ節転移がある。
 d sm 癌の EMR 根治条件は浸潤先進部組織型が高分化型～中分化型のうち高分化型に近いもの、sm 浸潤実測値 1,000 μ m までである。
 e 脈管浸襲陽性病変はリンパ節転移の危険性が高い。
- 19 誤っている組合せはどれか。
 a 鎖肛—————invertography
 b ヒルシュスプルング病—caliber change
 c 腸重積—————Hutchinson maneuver
 d 腸回転異常症—————mid gut volvulus
 e 先天性上部空腸閉鎖症—double bubble sign
- 20 家族性大腸腺腫症について正しいのはどれか。
 (1) 常染色体劣性遺伝性疾患である。
 (2) 原発性硬化性胆管炎を合併する。
 (3) dysplasia を生じやすい。
 (4) 網膜色素斑を合併する。
 (5) 原因遺伝子は APC 遺伝子である。
 a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
 d (3), (4) e (4), (5)
- 21 正しいのはどれか。
 (1) surgical trunk は回結腸静脈流入点から胃結腸静脈幹流入点までの上腸間膜静脈を指す。
 (2) 中直腸動脈は内腸骨動脈の第一分岐である。
 (3) 睥下縁では上腸間膜動脈は上腸間膜静脈の右側に位置している。
 (4) Riolan の動脈弓は上腸間膜動脈系と下腸間膜動脈系を繋いでいる。
 (5) 遺伝性非ポリポーシス大腸癌は若年発症する。
 a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
 c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
 e (3), (4), (5)
- 22 55 歳の男性。12 年前に潰瘍性大腸炎を発症した。最近の数年間には再燃なく、通院は不定期であった。下痢と下血を主訴に来院した。大腸内視鏡像(写真 3a)、注腸造影像(写真 3b)を示す。生検の結果は、Group V であった。病態として正しいのはどれか。
 (1) 通常の大腸癌に比べ予後不良である。
 (2) infliximab が有効である。
 (3) p53 の点突然変異が高頻度に認められる。
 (4) 粘液癌の頻度が比較的高い。
 (5) 炎症の消退後に手術を行えば、大腸全摘術を回避できる。
 a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
 d (3), (4) e (4), (5)
- 23 術前肝予備能の評価に有用でないのはどれか。
 a アルブミン
 b γ グロブリン
 c レチノール結合蛋白
 d IV 型コラーゲン
 e ヒアルロン酸
- 24 肝移植について誤っているのはどれか。
 a わが国では生体肝移植がほとんどである。
 b 術後の急性拒絶反応は血液検査で診断可能である。
 c 悪性腫瘍に対しても条件によっては健康保険が適応される。
 d 現在は成人(18 歳以上)への適応数が小児(18 歳未満)よりも多い。
 e 術後の免疫抑制剤は減量または中止すること

もある。

25 誤っている組合せはどれか。

- a 腺腫様過形成———肝癌類似病変
- b 肝硬変再生結節———大再生結節
- c 限局性結節性過形成———低血流性結節
- d 肝細胞腺腫———腫瘍内出血
- e 異型腺腫様過形成———前癌病変

26 門脈圧亢進症・脾機能亢進症について誤っているのはどれか。

- (1) 発生機序として endothelin-1 の関与が考えられる。
 - (2) 遠肝性側副血行路の描出に MR angiography が有用である。
 - (3) 門脈圧亢進性胃症により胃出血が起こる。
 - (4) 脾機能亢進症の所見として骨髄低形成がある。
 - (5) 血小板数の減少を認めれば脾機能亢進症と診断される。
- a (1), (2) b (1), (5) c (2), (3)
d (3), (4) e (4), (5)

27 正しいのはどれか。

- (1) Rex 窩とは門脈左枝臍部を通る陥凹部のことである。
 - (2) Arantius 管とは胎生期に左胃静脈と下大静脈とを連結している静脈管のことである。
 - (3) 左肝静脈は肝左葉全体をドレナージしている。
 - (4) 中肝静脈は肝右葉前区域をドレナージする。
 - (5) 右下肝静脈は直接下大静脈へ流入する。
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

28 通常型膵癌について誤っているのはどれか。

- a 占居部位は膵頭部が多い。
- b 診断のきっかけとして耐糖能障害例がある。
- c 膵体尾部癌は比較的予後が期待できる。
- d 本邦における癌による死因の第5位である。
- e 喫煙は発生の危険因子である。

29 誤っている組合せはどれか。

- (1) ガストリノーマ———MEN II 型
- (2) グルカゴノーマ———壊死性遊走性紅斑

(3) インスリノーマ———MEN I 型

(4) ソマトスタチノーマ———低アミノ酸血症

(5) WDHA 症候群 ———高カリウム血症

- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
- c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
- e (3), (4), (5)

30 56歳の男性。30年来の飲酒歴あり。アルコール性肝障害で経過観察されていた。上腹部の鈍痛があり近医受診。超音波検査で膵の異常を指摘され精査目的に来院した。

外来受診時検査成績：赤血球 378 万，Hb 14.9g/dl，Ht 43.7%，白血球 6,200，血小板 23.8 万，T. Bil. 1.9mg/dl，AST 174 単位，ALT 142 単位，ALP 424 単位，アミラーゼ 241 単位，リパーゼ 122 単位，エラスターゼ 345ng/dl，CRP 1.47，空腹時血糖 136mg/dl，CEA 5.8ng/ml，CA19-9 63.0 単位。CT 像（写真 4a），MRCP 像（写真 4b）を示す。追加すべき適切な検査法はどれか。

- (1) ERCP
 - (2) EUS
 - (3) 選択的血管造影検査
 - (4) 選択的動脈内セクレチン注入試験
 - (5) ソマトスタチン受容体シンチグラフィ
- a (1), (2), (3) b (1), (2), (5)
c (1), (4), (5) d (2), (3), (4)
e (3), (4), (5)

写真 1



写真 2a



写真 2b

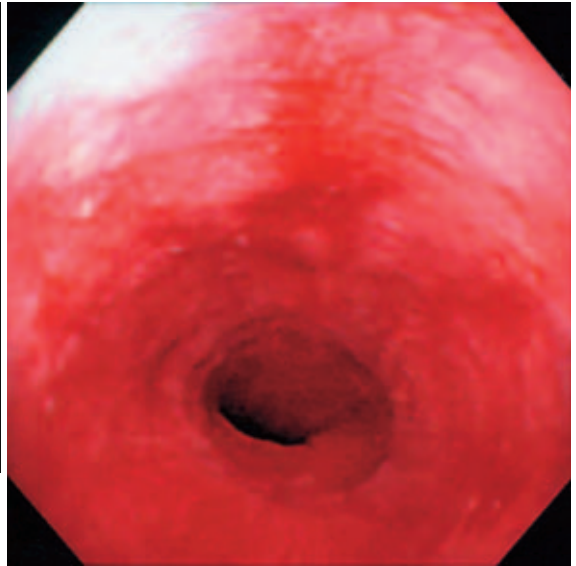


写真 3a

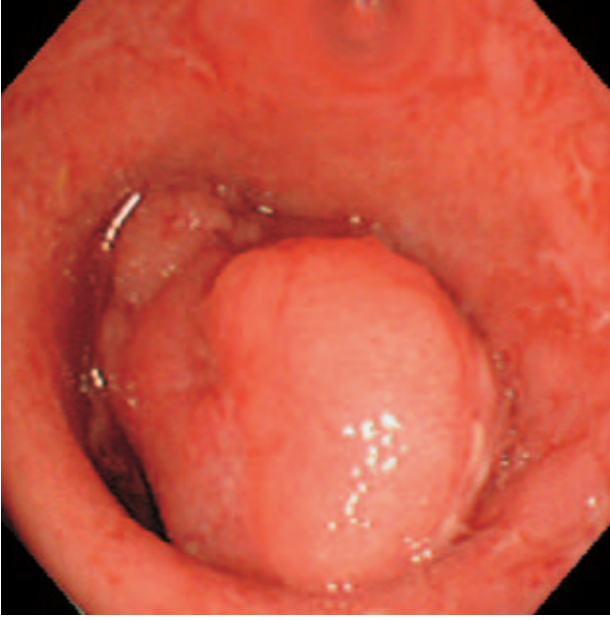


写真 3b



写真 4a



写真 4b

